

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業				
事業名	森山直太郎コンサートツアー2008「諸君!？」						
目的・内容	<p>ヒット曲「さくら(独唱)」で一躍注目を集めた森山直太郎のコンサートを鳥取で開催することによって、若年層の音楽ファンの底辺拡大を目指す。また、若い世代に財団の活動を知ってもらうことを目的に実施する。</p> <p>【使命】「県民へのサービスの推進」 【事業の柱】「企業との協働事業の推進」</p>						
開催日時	平成20年6月24日(火) 開演 19:00						
会場	とりぎん文化会館 梨花ホール						
入場料・参加費 (友の会)	6,000円						
集客状況	入場者数	1,650名	設定席数	1,942席	集客率	84.9%	
事業費状況	予算額	収入	9,817,500円	支出	9,675,000円	収支比率	101.5%
	決算額	収入	724,211円	支出	279,190円	収支比率	259.4%
来場者アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・初めてでしたが、トークも楽しかったし、生唱は最高です。是非、また山陰へ来てください。 ・最高でした。会場と一緒に盛り上がったのが良かった。 ・生きるということについて強いメッセージを感じました。心に響く言葉の数々に感動しました。 ・初めて来ましたが、最高でした。曲によって涙が止まりませんでした。 ・十分たっぷり楽しめました。チケット6,000円は高くないと思いました。 ・癒される歌を聴きに来たのに、立たれたのではテレビを見たほうがまし。じっくりと良い声を聞かせて欲しかった。 						
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの若年層に来場してもらうことができ、「若者の取り込み」という点では、当初の目的を達成することができた。 ・マスコミとの共催により、自前の媒体を活かした広報が重点的に行えるため、メリットが大きかった。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポップス系の事業を、次年度以降も財団自主企画事業としてどの程度の本数を実施していくのか、引き続き議論していく必要がある。 ・運営体制において、共催先とはスムーズに運営できたが、招聘元でコントロールされている部分が多くあり、チケット集計などの調整を必要としたので、事前の十分な打ち合わせの必要性を感じた。 ・友の会会員増も狙った事業であったが、友の会会員の拡大には繋がらなかった。 ・「文化振興財団」をもっとアピールする必要がある、こういった事業も財団主催の事業だと理解してもらうためのPRが今後の課題。 						
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者のための事業として、評価できる。あれだけの人数の若者をとりぎん文化会館に集められたのは、良しとすべき。 ・若者のみならず40代・50代の女性のパワーに圧倒されたこのコンサートは大成功だったと思う。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・招聘元・協働推進者・財団の三者間での役割分担の線引きは、事業の早い段階で行うべき。 ・この事業が財団の事業としてどういう意味を持つのか、どういう効果があるのかを、しっかりと問い直すことが必要。 ・財団事業として親しみやすいポップ系の事業を増やしてはどうか。 						
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・このような事業を通じて財団の事業を理解してもらうためのPRを検討する。 ・マスコミとの共催によるメリットが大きく、今後も推進して行くと共に、事業内容等をよく検討し損益折半での開催など、様々な方策を検討していく。 ・友の会会員を増やすための工夫を早い時期から協議し、対応していく。 ・事業運営において、共催先と事前に十分な打ち合わせを行う。 						